

総理冒頭御挨拶

本日は、KAKEHASHI Projectに参加した皆さんにお会いできてうれしい。私は、4月26日からの訪米の最後の訪問地としてロサンゼルスを訪問したが、その最終日に皆様に会えてうれしい。皆さんは日米関係の未来の架け橋になっていただける方々。9日間の日本滞在中、被災地訪問や日本企業視察、地方訪問、ホームステイ等を通じて普通の日本の生活を体験し、市井の人々と出会ったと思う。

1977年、私はロサンゼルスに留学し、中国系米国人である友人にイタリア系米国人を紹介してもらい、そこでホームステイをした。留学を通じ、多様性のある米国を経験した。皆さんも9日間の滞在で日本の様々な側面を直接体験したのではないかと思う。9日間の経験をこれからの人生に活かしてほしい。私は、これから更に皆さんのような日米の若者が交流していけるようにしたい。

私は、今朝、留学時代の友人と会った。彼は、2時間運転してわざわざ会いに来てくれた。大変感動した。彼は、当時は長髪だったが、今がなかったの、最初は誰だかわからなかったが（笑）。しかし、若い時代に育んだ友情は変わらない。皆さんも、訪日中に知り合った友人との関係を今後も維持してほしい。私の当時の友人は、私が日本の総理大臣になるとは想像だにできなかったと述べた。この中から米国大統領が生まれるかもしれない。

ぜひ、価値観を共有する日米両国の関係の一層の促進の架け橋となってほしい。

学生からの代表質問「日本が直面する最大の課題とその対策」

KAKEHASHI Projectに参加した学生から標記質問を受けたところ、総理の応答ぶりは概要以下のとおり。

- ・日本は人口減少と少子高齢化に直面している。さまざまな対策を実施しているが、当面の間、これを劇的に変えることはできない。
- ・日本はすべての国民に国民年金及び医療保険への加入を義務付ける皆保保健制度を導入しているが、これを支えるのは大変なことである。人口を減らさない政策をとると共に、日本が社会保険制度を守りつつ活力を得るには何が必要かを考えなくてはいけない。その答えは生産性を上げることである。生産性を上げるために大切なことが3つある。

第1に、様々なイノベーションを育てていくこと。その一つがロボット革命である。

第2に、多くの方に生産活動に参加してもらい、つまり女性、高齢者、外国の優秀な方々などにも社会に参加して頂くということである。

第3に、日本の人口が減りつつあるということは日本の消費者も減っているということだが、他方、アジア太平洋地域の消費者は増えている。だからこそ、TPPやアジア太平洋諸国との経済連携を強めていく必要がある。

- ・日本はどんどん変わっている。皆さんが、今から一年後に日本に来る機会があれば、日本の変化を目の当たりにするだろう。皆さんは9日間の滞在中、地方も訪れたと承知。私の政権は、地方の活力を取り戻す政策も進めていく。